

# 暖房技術シンポジウム ～省エネルギー性と快適性の両立を目指して～

## 実施報告書

### 1. 開催趣旨

地球温暖化問題が厳しさを増し、世界的にその対策の推進が求められているなか、わが国では、増加を続ける家庭内でのエネルギー消費の削減が喫緊の課題となっています。一方、安心して健康で過ごせる、質の高い快適な住生活への要望はますます高まる傾向にあり、「より高い快適性」と「より高い省エネ性」を両立できる暖房システムの提供が求められています。

このシンポジウムでは、ベターリビング内に設置された調査研究委員会における、5年間に亘る、快適性を考慮した暖房システムの評価手法等に関する調査研究の成果発表を兼ね、関係各方面のキーパーソンより、家庭用エネルギー消費の実態や対策の進捗状況、暖房に関する研究開発の取り組み状況など、最新情報をご提供いただくとともに、快適な暖房の今後のあり方や具体的な対策を探っていきます。

### 2. 実施概要

- |          |                                   |
|----------|-----------------------------------|
| (1) 主催   | (財) ベターリビング                       |
| (2) 共催   | ウィズガスCLUB                         |
| (3) 後援   | 国土交通省、(社) 空気調和・衛生工学会、(独) 住宅金融支援機構 |
| (4) 協賛   | (財) 建築環境・省エネルギー機構、(社) リビングアメニティ協会 |
| (5) 日時   | 平成19年12月3日(月) 10:00～16:30         |
| (6) 開催場所 | すまい・るホール(東京都文京区後楽1-4-10)          |
| (7) 参加費用 | 一般: 5,000円/学生: 2,000円 (テキスト代含む)   |
| (8) 定員   | 295人                              |

### 3. プログラム

主催者挨拶	(財) ベターリビング理事長	那珂 正
来賓ご挨拶	国土交通省住宅局住宅生産課長	坂本 努
ご挨拶(暖房技術シンポジウムによせて)	神奈川大学工学部建築学科教授	鎌田元康

#### 【パネルディスカッション】 住宅のエネルギー消費と暖房用途エネルギーの動向

司会者/	慶応義塾大学理工学部教授	村上周三
パネリスト/	(株) 住環境計画研究所所長	中上英俊
	科学ジャーナリスト	東嶋和子
積水ハウス(株) 設計本部サステナブルデザインラボラトリー所長		木村文雄
	日本ガス体エネルギー普及促進協議会会長	村木 茂

#### 【特別講演】 住宅における断熱・気密性能の向上と暖房に求められるもの

東京大学大学院工学系研究科教授	坂本雄三
-----------------	------

#### 【技術講演】 快適性を考慮したこれからの暖房方式のあり方について

室内温熱環境計測の最新情報とその動向

東京理科大学教授	倉淵 隆
----------	------

最新の被験者試験による室内温熱環境評価について

芝浦工業大学教授	秋元孝之
----------	------

サーマルマネキンを用いた熱収支面からの室内温熱環境評価について

早稲田大学教授	田辺新一
---------	------

一般来場者	104人
招待来場者	118人
報道関係者	5人
登壇者	12人
司会、スタッフ	19人
合計	264人

#### パネルディスカッション概要（「ウィズガスCLUB通信」より）

「省エネルギー性と快適性の両立を目指して」

村上教授は冒頭、現在の日本の暖房水準についての問題提起を行い、エネルギー供給や住宅の断熱についての政策の策定が必要であると述べた。

中上英俊住環境計画研究所所長からは、断熱を高め、全館暖房の普及を目指し省エネと快適性を同時に追求すべきではないか。

科学ジャーナリスト東嶋和子氏からは、床暖房の快適性は使ってみて実感。肌が乾燥しないことが大きなメリット。また浴室暖房機はヒートショックによる事故防止のために、効果が期待できる。

木村文雄積水ハウスサステナブルデザインラボラトリー所長からは、日本の四季折々の生活や文化、太陽の光や暖かさと自然の風を取り入れた暮らしを研究している。暖房についても重要なテーマとなる。

村木茂日本ガス体エネルギー普及促進協議会会長からは、住宅とエネルギーをより一体化して考え、消費者の立場になって提案していくことが重要であると述べた。

#### 技術講演概要（「ウィズガスCLUB通信」より）

東京理科大学の倉淵隆教授は、床暖房とエアコン暖房による室内投入熱量と室内温熱環境について、空気の流れや温度分布の様子を映像を使いながら分かりやすく紹介した。

芝浦工業大学の秋元孝之教授は、実際に人がどう感じるかという被験者試験を通じて、エアコンよりも床暖房のほうが低い空気温度で快適感が得られると報告した。

早稲田大学の田辺新一教授は、サーマルマネキン（温度センサー付のマネキン）を用いて、そのマネキンが投げ足時（リビングにてくつろぐ体勢）においてエアコンと比べ床暖房は4度低い設定温度でも同様の快適性が得られると報告した。



詳細については [こちら](#)